

天文教育

2024

11

*Publications of the Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy
(PJSEPA)*



- 〈解説〉 1941 年の皆既日食
- 〈投稿〉 天文教育における探究型学習課題（1）
- 〈投稿〉 Seestar S50 による太陽黒点観察法
- 〈投稿〉 児童を対象とした“周極星学習”の指導例
- 〈報告〉 高等学校天文部の交流会報告
- 〈報告〉 CAP2024 参加報告
- 〈報告〉 第 14 回高校生天文活動発表会報告
- 〈お知らせ〉 会誌の配本方式が変わります（電子配布がメインへ）

本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

なお原稿の投稿は、編集部から依頼した場合を除き、原則として当会会員の方に限らせていただきます（共同執筆者に会員を含む場合はこの限りではありませんが、投稿は会員の方からお願いいたします）。

1. **原著論文・資料論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクト（要旨）には英文も付けてください（英文は審査通過後に追加も可）。
2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事や、さまざまな天文教育や社会教育などの実践記事。分量は刷り上がりで6~10ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告など。分量は刷り上がりで2~4ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1~2ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
6. **裏表紙の写真**：タイトルと400字以内のコメントとともにご投稿ください（写真のみでも構いません）
7. **情報コーナー（各種会合・イベントの告知など）**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただきます場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日（奇数月下旬）にご留意ください。

・**締め切り**：1は随時受け付け、2~7は偶数月（発行の前月）15日です。投稿先は post@tenkyo.net です。

・本誌に掲載された記事（上記1~6および7の一部）は、当会 Web サイトにて pdf ファイルの形で一般に公開いたします。インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡ください。

・**広告掲載**を希望される方は事務局 (jimu@tenkyo.net) までお申込みください。掲載料は B5 判 1 ページ ¥20,000-、半ページ ¥12,000-、1/4 ページ ¥7,000-、チラシの折り込み ¥20,000-です。

【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

- ・原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・執筆用のテンプレートが当会 Web サイト (<https://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします。執筆上の留意点なども記しています。
- ・十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：post@tenkyo.net

表紙の言葉

大彗星になった紫金山・アトラス彗星

2024年10月13日18時25分頃の紫金山・アトラス彗星

撮影地：長野県須坂市峰の原高原、撮影者：大西浩次

「ああ、大彗星になっていたんだ」。2024年10月13日の夕暮れ、残照の中で紫金山・アトラス彗星(C/2023 A3 Tsuchinshan-ATLAS)を探していた。この彗星は、2023年1月、中国の紫金山天文台で発見されたが、追観測されず、2月末にATLAS（南アフリカ天文台）で再発見された。初期軌道より、近日点（9月28日）通過前後に肉眼彗星になると予報されたが、2024年6月に彗星研究の大家、セカニナ博士が崩壊説を唱えたことにより、大彗星の夢が一旦に消え失せてしまった。ところが、近日点前後の夜明けの超低空で、長い尾を持つ彗星の姿で捉えることができた。私も10月1日の夜明け前、1等級で輝く彗星を捉えたが、双眼鏡では見えるが肉眼では見えなかった。この彗星は、10月8日前後に、地球から見ると、ほぼ太陽の前面を通過する位置にいて、彗星ダストの前方散乱の効果によって、SOHO のコロナグラフには金星より明るい姿

で写っていた。その後、日本の夕方の空でどの様に見えるか期待が高まった。しかし、12日は彗星を探すも見つかりませんでした。このため、肉眼では無理と考え、13日には望遠鏡で探すことにしたのです。当日、日の入りから40分ほどの残照の中で金星が見え始めた。ちょうどその時、金星から20°ほど離れたところで、ぼんやりとした「天体？」が見える様な気がした。しかし、「肉眼では見えないはず」と思い、望遠鏡で彗星を探したところ、日の入りから約50分後に望遠鏡の視野の中で彗星が見つかった。そして、望遠鏡の向いている方向に目を向けると、錯覚と思った天体？が、青い空の中で10°以上の長い尾を持つ彗星の姿として浮かび上がってきたのです。大いに驚き予想外の出来事に深い感銘を受けたのです。この彗星は、次第に暗くなりながらも、未だに天の川の中で長い尾を伸ばしています。

さて、私が「表紙の言葉」を担当して、数えると約13年が過ぎました。今回は78回目ということで、これが最終回です。長らくありがとうございました。また、どこかでお会いしましょう。